第２回両立支援コーディネーター交流会
～実際の社内制度整備についての多職種検討～

社会福祉法人
愛耕福祉会

令和３年５月２８日（金）労働会館
参加者：２３名（うちコーディネーター１９名）
オブザーバー：島根県健康福祉部健康推進課
島根労働局健康安全課

愛耕福祉会様に全面的にご協力を頂きました

　島根産保センターでは、令和３年度より両立支援コーディネーターの資質向上とつながり作りを目的とし、コーディネーター交流会を本格的に始動いたしました。
　今回の交流会では、雲南市の社会福祉法人愛耕福祉会様に全面的にご協力いただき、両立支援の社内制度整備を進めるにあたって生じた課題・疑問点等について、包み隠さず事例としてご提供いただきました。それらを県内の多職種の両立支援コーディネーターで話し合い、解決のための意見を出し合って、実際の社内制度整備に活用していただける形で企業にフィードバックしました。
　なお、地域職域連携により、地域全体で患者を支える環境を目指すため、行政機関をオブザーバーとして招きました。

＜次第＞
1．両立支援コーディネーター交流会について
　（産業保健専門職　仲佐菜生子）
2．両立支援に必要な労務管理に関する知識
　（両立支援促進員　福本健二）
3．事業場事例紹介
　（社会福祉法人愛耕福祉会　総務リーダー
　長澤裕美）
4．事例検討／グループワーク
5．グループ発表
6．まとめ／質疑応答

＜参加者内訳＞
・事業場コーディネーター　９名
　（人事労務担当５名、看護師１名、作業療法士２名、社会保険労務士１名、）
・病院コーディネーター　４名
　（社会福祉士２名、理学療法士２名）
・産保コーディネーター　６名
　（社会保険労務士２名、保健師３名、その他１名）
・オブザーバー　３名

グループ	検討課題
A	（1）ストック休暇
B	（2）通院休暇対象疾患
C	（3）勤務情報提供書
D	（4）社内周知
E	（5）健康情報取り扱い規程

「愛耕福祉会の現状と、グループワークでの検討内容」というワークシートを基に、実際に企業内で困っている内容について、１グループ１テーマを60分じっくり検討しました。

和気あいあいとした雰囲気の中、活発な意見交換が行われました。交流会終了後も延々と名刺交換・情報交換が続き、コーディネーター同士しっかりと横のつながりを作ることができました。

<検討結果> ※一部抜粋

●ストック休暇について

【Aグループ回答】

・①新しく入職した職員には〇年目まではストック休暇とは別の休暇制度を創設する。
②入職から〇年経過後は消滅有休日数をストックする。ストック期間は原則２年。
①②を併せて制度化してみては。（※〇については企業内で検討のこと）

・職員のニーズをリサーチし規程に反映するために、休暇についての職員アンケートを取ってみては。（付与の希望日数、休暇をとる理由：入学式、結婚記念日、子どもの誕生日、通院など）アンケートの内容を社内で共有することでより休暇が取りやすい環境づくりができるのでは。

・就業年数によって差をつける方がより平等であるといえる。

●勤務情報提供書（愛耕福祉会版）について

【Cグループ回答】

・様式は１つではなく、保育士用とその他職員用の２種類作成してみては。

・職務内容は、チェック☑を入れてから詳細を記載できるように、枠の上下を入れ替えた方が良い。

・愛耕福祉会で利用可能な制度のみを記載するように。（様式例をそのまま記載しない）

・会社の窓口の連絡先、担当者氏名を記載すると、病院が連絡を取りやすい。

・「休業可能期間」ではなく「雇用可能期間」の方が伝わりやすい。（一方で患者にはきつい表現ではある）

・病院側（医師やMSW）から直接説明を聞きたいかどうかのチェック欄を設けてはどうか。

愛耕福祉会様より

皆様から貴重なご意見をいただき、両立支援制度を充実させる機会となりました。他施設・企業の方と繋がりを持たせていただくことで、現状をよりよくしていくことができると確信しました。両立支援コーディネーター間での「顔の見える横の繋がり」をとても心強く感じています。私たちも皆様のお役に立てるよう知識と経験を積み重ねていきます。

参加コーディネーターより
（株式会社CANVAS　藤井様）

初めて両立支援の交流会に参加させていただきました。グループワークでは両立支援の事例をもとにリハ職や労働局職員、企業職員に社労士など様々な立場の方とディスカッションでき、示唆に富んだ話し合いができました。多方面からの考えに触れたことで、今後コーディネーターとして柔軟な発想につなげていけそうです。

オブより（労働局健康安全課）

島根県、ここまで進んできたか。と感じました。

一つの課題に対して、職種が異なる者が同じ目線で話し合う。結果は一つではありませんが、幅広い見識ができたと思いますし、病気になっても働きたいと思っている方々をつないでいくことはもちろん、その周りの人のつながりもつくっていくことが、治療と仕事の両立支援を広げていくものと思いました。

第３回両立支援コーディネーター交流会は秋以降、オンラインで予定しています。
両立支援コーディネーターの皆様の参加をお待ちしております。

産業保健専門職　仲佐菜生子